

平成 23 年 8 月 9 日
石油資源開発株式会社

東日本大震災被災地区での当社従業員ボランティア活動（第二回目）について

当社は、従業員による東日本大震災被災地域での復興支援ボランティア活動に対して積極的な支援を行うこととしていますが、このたびその第二回目の復興支援ボランティア活動を実施致しましたのでお知らせします。今回の活動では本社からの参加者に加えて秋田鉱業所勤務の従業員も参加しました。

また、別途北海道鉱業所従業員による民間ツアーを利用したボランティア活動も実施致しましたので、併せてお知らせします。

記

1. 本社および秋田鉱業所従業員によるボランティア活動

(1).実施日：平成 23 年 8 月 1 日

(本社：7 月 31 日東京発～8 月 2 日東京着、秋田鉱業所：日帰り参加)

(2).場所：宮城県本吉郡南三陸町

(3).参加者：当社、当社グループ会社の従業員およびその家族

本社 29 名、秋田鉱業所 12 名 合計 41 名（男 35 名、女 6 名）

(4).活動内容：南三陸町ボランティアセンターの指導の下、次の作業を実施。

①公立志津川病院での瓦礫撤去作業

②歌津田ノ浦地区民家の仮設倉庫の建築および家財の整理・清掃作業

2. 北海道鉱業所従業員によるボランティア活動

(1).実施日：平成 23 年 7 月 30、31 日（7 月 29 日苫小牧市発～8 月 1 日苫小牧着）

(2).場所：宮城県東松島市および同県石巻市

(3).参加者：当社従業員 11 名（男 11 名）

(4).活動内容：各市ボランティアセンターの指導の下、次の作業を実施。

7 月 30 日 東松島市内住宅地隣接道路側溝の瓦礫および汚泥撤去作業

7 月 31 日 石巻市牡鹿地区被災家屋での瓦礫撤去、家財等の整理作業

3. 今後の予定：

南三陸町でのボランティア活動（作業は月曜日に実施）

3 回目 8 月 21 日（日）～8 月 23 日（火） 約 40 名予定（本社）

4 回目 8 月 28 日（日）～8 月 30 日（火） 約 55 名予定（本社および長岡）

<ご参考>

参加者の声（別紙）

以 上

参加者の声 ～ボランティア活動に参加して～ II

〔本社〕

今回参加した我々29名は、公立志津川病院の4階の清掃作業を担当しました。粗大ごみに分類されるような大物(ベッドやガラスの割れた窓など)から手のひらサイズの物までの撤去・分別作業でした。慣れない作業でしたが誰一人怪我することなく4階全フロアの作業を完了しました。ボランティア未経験者の私にとっては、全てを自分で準備し現地に赴くのはなかなか難しいものがあり、このような機会は本当に有り難かったです。

今回、被災地を実際にこの目で見て、改めて復興への道のりの長さを痛感しました。今後も自分に出来ることを探し、実行したいと思います。
(男性 29 歳)



「少しでも、被災者の力になれば・・・」と思い、ボランティアに参加しました。現場に行ってみると、鉄筋がむき出し状態であったり、家が建っていたであろう場所は跡形も無くなっていたりと、改めて津波の恐ろしさを実感しました。今回は参加者全員で志津川病院内の瓦礫撤去作業を行いました。一日かけて作業した結果、朝とは見違えるほど綺麗になりました。復興には、永い年月を要すると思いますが、たとえ微力でも継続していく事が大切だと感じました。私の出来ることは本当にささやかですが、今後も行動していこうと思います。(女性 25 歳)

〔秋田鉱業所〕

秋鉱からの参加者12名は、1階の天井まで浸水した邸宅で、浸水した家財の運び出し及び清掃、仮置用の倉庫の建築を行いました。すぐ近くには基礎のみとなった家屋があり、また田圃には大破した車や船が数多く転がっているのを目の当たりにして、津波の猛威の前に無力感さえ感じましたが、最後に家主から感謝の言葉をいただき、今回の活動が微力ながらも復興の一助になると信じ、今後も何らかの貢献を続けていきたいと強く思いました。
(男性 27 歳)



〔北海道鉱業所〕

2日間の活動の中で、特に印象的だったのは、津波で壊滅的な被害を受けた宮城県石巻市牡鹿地区での瓦礫撤去や泥かき、家財の撤去作業でした。臭いとヘドロに悪戦苦闘しつつも、北海道鉱業所11名は連携を密に取りながら作業に従事し、途方もなく思えた大量の瓦礫や泥も、各人の強い目的意識と連携意識により、最後には大きな瓦礫の山として片付けることができました。体力を尽くして挑んだ活動でしたが、復興全体から見ると本当に微力であり、これからもまだまだ継続した関心と支援が必要であると改めて実感しました。(男性 23 歳)

